

高崎経済大学経済学会 学生懸賞論文 執筆要項

<注の表記>

注は番号をふり、全体の末尾にまとめて記入するか、各ページ毎に脚注として記入すること。

引用：他の人の文章をそのまま引用する時には、引用文を「 」でくくり、必ず文献・資料名・引用箇所を明記する。

参照：他の人の文章を少しでも変えた場合は、「 」をつけず、必ず文献・資料名・参照箇所明記する。

出典：図、表などをのせる場合、必ず出典を明記する。

(例) 出典：経済企画庁編『生活白書』 1990年、12頁。

データを元に自分で図表を作成した場合には、以下のようにする。

(例) 出典：経済企画庁編『生活白書』 1990年、12頁より作成。

<引用>

引用した文章は、引用箇所であることがわかるようにすること。カギカッコ「 」で囲む、斜体にする、長くなる時は引用文の前後を一行あけ頭文字を下げること。

本文中には著作名、出版年、頁数等を簡略に注記する。

<例>

さらに『産業と商業』まで含めれば、もう一点、「小企業が1000ポンドを借りることの方が、10倍の大きさの企業が5万ポンドを借りるよりも、さらに困難なことがしばしばある」(Marshall 1919:168)と、資金調達の容易さにも言及している。

<共著の場合>

引用元の文献が2人の共著のときは、引用のたびにファースト・オーサーの姓を書き、その他は「他」と表記。外国文献では、その他は「et al.」を用いる。

<例>

(原野 他 1977)

(Friedman et al. 1971)

<参考文献>

参考文献一覧は著者アルファベット順あるいは五十音順とする。全ての文献・資料について、順序はもちろん、カンマやピリオド、スペースの空け方もまったく同じにすること。

紙媒体の場合

- ①単行本 著者名(刊行年) 『書名』 出版社名。
- ②雑誌論文 著者名(刊行年) 「論文・記事名」『雑誌・新聞名』巻号数: 掲載全ページ数。
- ③単行本(論文集)の中の雑誌論文 著者名(刊行年) 「論文・記事名」 編者名『書名』出版社名、 掲載全ページ数。

<例>

- ① 高崎太郎 (2007) 『大学改革その先を読む』 東信堂。
- ② 群馬次郎・栃木三郎 (2008) 「学士課程における学習成果等に関する考察」『高崎経済大学論集』35巻6号: 136-144。
- ③ 前橋雅治 (2003) 「地域に生きる研究所の足跡をみつめて」経済太郎・高崎花子編『大学と地域貢献』日本経済評論社、 147-198。

電子媒体の場合

著者名 (刊行年)「論文・記事名」『雑誌・新聞名』巻号数、 [発行所、]: 掲載全ページ数、オンライン、「文献・情報を閲覧した場所」、 コンピュータ・ネットワーク名、 アドレス (アクセスした日)

<例> 武石恵美子 (2002) 「雇用システムの構造変化と女性労働」『経済地理学年報』48巻4号: 323-338、インターネット、
<http://ci.nii.ac.jp/Detail/detail.do?LOCALID=ART0002988332&lang=ja> (2009/11/18 閲覧)